

きみも詩を かいてみよう！

はなび

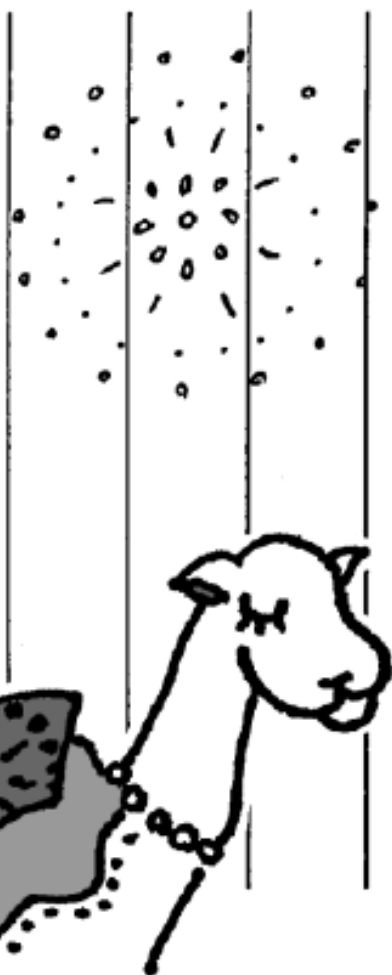
くっくっく

ひやるる〜

ぱあっ

どーん

きらきらきらきら〜



詩って、どうしたらうまれるんだろう？

- × 自分で見たもの感じたものをそのままことばに書きあらわす
- いちど、頭の中にイメージ（形づくられた1枚の絵みたいなもの）をこしらえ、それに自分なりのことばをあたえていく
この「ことばの組み合わせ」に自分らしさを出すことが大切だよ！

詩は、大きく分けると3種類あるんだ。

- ことばあそびのように、ことばの組み合わせだけを楽しむ詩
- 身近な生活や体験を題材にした詩
- 心に想いえがいたことを書いていく空想の詩

どれにするかはきみ次第だよ。どれにする？

「何でもよく見てやろう、見直してみよう」という気持ちで、身の回りのことを見てみると、詩を書くキッカケが見つかるよ。

詩のことばをつかむコツは…

1. 自分の体験を深く考えて、イメージする
そのイメージをことばであらわして、イメージに形をあたえる
2. 連想をつづけて、どんどんイメージをひろげ、ふくらませる
3. 「決めことば」（殺し文句）で最後を締めくくる

★つくってみよう！★

① 一行詩に挑戦！



自分や家族を、何か別のものにたとえていうと・・・

「〇〇」は「△△」のようだ

〇〇・△△に、キミなりのことばを入れてみよう。

次はちょっと変えて・・・

「〇〇」は「□□」だ

たとえば・・・「お母さんはニンジンだ」とか。こっちの書き方は、「どうしてそうなの？」と疑問に思うよね。そのとき思ったことをことばにして、そこにつなげていけば、詩ができるんだよ。

② 書き出しをきめて

何でもいから、書き出しのことばを決めてはじめよう！

最初のことばを手がかりに、いろいろ思いついたことばを後につなげていけば、短い詩ができるよ。

たとえば・・・ 「みつけたよ」からはじめてみよう！

みつけたよ

〇〇〇を (みつけたものをかく)

△△な〇〇〇を (それはどんなようすだったのかな?)

★ほかにも こんな方法で・・・★

〈なぞなぞ〉詩

□のなかの□な～に

それは□

おうちのなかの お日さまな～に

たとえば・・・それは 蛍光灯

夜がきても おうちのなかを

あかるくてらしてくれるから

なか
□の中に

いろんなことば
を入れて、どん
どんなぞなぞを
作っちゃおう！

ぶん うえ した
文の上や下に

「したいなあ」

をくっつけて

作るんだよ。

〈～したいなあ〉詩

うみ いきたいなあ

こんなに書くて いい天気なのに

どこへもいかないなんて

えりちゃんちは きょう家族みんなでおでかけしてる

ほんとは えりちゃんと あそびたいなあ

〈ゆめ〉詩

ある夜 ゆめをみた

そのゆめは こうだった

ぼくが浜辺で 海を見ていると

カメがたくさんあがってきて ぼくをおいかけた

いちばん大きいソウガメは ぼくをおしつぶそうとした

そこで ゆめがおわったのです

ここにゆめの内容を書こう！

思い出したことだけでいいんだよ。

ウソのゆめでもいい。ウソは

大きいほど楽しいよ！



ほら、いくつも
できるでしょ？
こんなふうにとんと
んつくってみよう！

さんこう ほん
—参考にした本—

『詩をつくろう』 石毛拓郎・著 さえら書房 911イ